
放課後勇者。

駄文商工会

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放課後勇者。

【Nコード】

N4977Y

【作者名】

駄文商工会

【あらすじ】

テンプレの如く勇者として召喚された俺、あくたがあきひと芥河明人。
まあ、俺の世界にも魔獣はいたし、魔法もあつたから頑張りますかねっと思つた瞬間もはやテンプレのテの字も無い事態に?!

これは勇者（巻き込まれ体質系不幸少年）とその愉快（愉快犯的な意味合いで）な仲間達（天災系トラブルメーカー）がお送りする、ご都合主義満載のグダグダ系放課後限定異世界トリップものです。

ブログいち!? (前書き)

どうも駄文商工会です。懲りずに連載はじめました。プロットもなく不定期更新とかそんなレベルではないですが暖かい目でヨロシクお願いします。

プロローグいち！？

此処は地球とは異なる生態系を持つ世界『アルカディア』

地域ごとに様々な文化体系を持つが基本的には中世ヨーロッパ程度の文化を持ち、魔族、獣人族、人族、竜人族、妖精族など様々な種族が住む、所謂『剣と魔法のファンタジー』な世界だ。

そして、テンプレートではあるが魔族と人族は戦争をしており、人族は敗北寸前まで追い込まれていた。

更にテンプレートではあるが追い込まれた人族は異世界から勇者召喚を決意、そして実行したのだ。

そう

三日かけて。

放課後勇者。

此処は人族の国『ミッドガルド』にある『天の祭壇』

人族は昔から危機的状況を迎えると此処で勇者を召喚している。

そして今回も例外ではなく、祭壇には金髪碧眼の色白な美少女巫女が勇者召喚の為、祈祷を捧げていた。

当然三日前から一睡もせず。

そのため、少女の頬は少しこけており目元にはどす黒いくまができており、女性としていろいろ終わってる状態である。

巫女がそんな状態であるため、勇者として召喚された者はまず軽い混乱を起こすが次の瞬間には目の前の巫女を心配するのが勇者召喚

の決まり事なのだ。全く嫌な決まり事である。

そうこうしているうちに巫女は祈祷を終えおもむろに祝詞を紡ぐ。

「おお、この空の果て、天に住まわれる神々よ、我が祈りの元、我等を導く希望の勇者を我が前へ喚びだしたまえ！」

少女は弱々しいが確かにそう唱えた。

そして『天の祭壇』に描かれた魔法陣が凄まじい光を放ち、その光は人型に集まると一人の少年へと姿を変えた。

5

突然だが自己紹介をさせてくれ。

俺は芥河明人^{あくたがあきひと}、17才で高校2年。『帰宅部』所属で、趣味はお菓子作り^{あか}に読書、特技はない。

あだ名はアクトで成績普通、運動神経普通、生活能力普通の何処にでもいるありふれた存在だ。

そんな何処にでもいるありふれた存在である筈の俺は下校した後趣

味のお菓子作りをしてから『帰宅部』へ向かう途中、突然現れた落とし穴に落ち、
気がつくと……………

見知らぬ中世ヨーロッパを思わせるような土地にいる上、いろいろ終わってる状態の巫女らしき少女と、
何故か人を喰ったようなな笑みを浮かべている20才位の男イケメンと、
そんな男を呆れたような目で見ていかにも女王様って感じの女性、更に剣や槍等様々な武器を持った騎士甲冑が沢山いたんだ。

……………もう意味わかんねえだろう？

安心してくれ、俺が一番意味わかんねえから。

そんな事考えてると目の前の巫女さんがフラフラとこっちに倒れ込

「なんじゃとおおおお?!」

と叫ぶ女王様。

「ア、アヒヤヒヤヒヤヒヤ!」

と腹を抱えて涙を流しながら大爆笑しているイケメン。

「ア、アリス様ああああ?!」

と遅れて階段下に走っていく騎士甲冑達。

うん、カオスだな。

そして俺は階段の側までいき下で伸びてる巫女さんに向かって

「テメエらの都合は知らねえけどなあ、こちとら学生なんだぞ!
此処は異世界だかなんだか知らねえが、こんな事になって行方不明
扱いされて、

出席日数足りなくなったらどうすんだよ!? つーか今まで小学校か
らずつと皆勤賞だったんだぞ!

これの裏にどんな波瀾万丈なドラマがあったと思ってるんだ!!
すくなくともテメエならあつという間に蒸発するような事もあつた
んだぞ!?

つーか、今この状況がどんだけヤバいかわかんねえのか!?

テメエは知らねえかもしれねえけどコレ（お菓子）をアイツラに持
つていく途中でアイツラが目視出来るところだったんだぞ!?

どんな新手的の『おあずけ』状態だよ!?

テメエのせいで俺が殺されるだろうがああああああ!!--!」

と吠えてみた。

また時間が凍った。

女王はまたポカーンとしている。

イケメンは大爆笑は止まったがなんかニヤニヤしながらコツチを見ている。

巫女さんには、まあ聞こえてないだろうけど。

するとニヤニヤしていたイケメンが俺に話し掛けてきた。

「よう、異世界から召喚された不幸少女(勇者)くん。まあ、おまえさんもツイてないねえ。」

先程から浮かべている人を喰ったようなヘラヘラとした笑顔。

そして、まるで人を小馬鹿にしたようなこの口調。

率直に言おう。コイツ間違いないくトラブルメーカーだ。

だってコイツからはアイツラ(『帰宅部員』)と同じ匂いがするんだもん。

そしてアイツラと一緒にしたら、目を付けられた時点で終わりで

あり、今この状況は俺の心中からすればまさしく『前門の虎、後門の竜』なのだ。

しかし、コイツは1人、アイツらは8人。

ならばコイツだけを相手にしてた方が楽だ。というわけで

「ああ、全くだよ。まあ喚ばれたもんは仕方ないか、俺は芥河明人。気軽にアクトとでも呼んでくれでアンタは」

と軽く自己紹介をする。

するとイケメンは少し意外そうな顔をしてからまたニヤニヤして

「へえ、コレはまた意外と落ち着いてるねえ。まあいいか、とりあえず自己紹介だな。

俺はアシュレイ。アシュレイ・アッシュフォード、チョイと小洒落て魔王なんかやっている何処にでもいる悪戯好きなお兄さんだ。

これからヨロシク！」

とサムズアップしてきた。

何故此処に魔王様が居るのかツッコむべきなのか、その魔王様に負けず劣らず面倒臭いヤツを8人も知っている己の不幸を嘆くべきなのか。

とりあえず俺は今日の前に居る頭痛の種（魔王様）を無視して、こめかみを押さえ溜息をついた。

プロローグいち!? (後書き)

こんな駄文でもお楽しみ頂けたなら幸いです。

次は魔王様のターン&召喚直後の『帰宅部』の予定です。

いつになるかわかりませんがまた次回に。

ブログに!?(前書き)

なんとか年内更新です。

駄文ですがどうぞ (^ ^ | ^ ^ ;)

プロローグに!?

「おお、この空の果て、天に住まわれる神々よ、我が祈りの元、我等を導く希望の勇者を我が前へ喚びだしたまえ!」

そう召喚の巫女アリスが唱えると魔法陣から光があふれ、その光はやがて、一人の『絶世の美女』となった。

身長は170cm程だろうか。女性としては高めの身長だが細身というより華奢あり実際にはもっと高いように感じるだろう。

顔は小顔でまるで白磁のような白い肌、肩にかかる位に伸びた黒髪は、まるで星空を閉じ込めたかのように艶やかで、そのあどけなくもあるが、クッキリとした顔立ちにとっても似合っている。

特に彼女が持つ宝石の様な紅い瞳は正に妖艶。

ぶっちゃけ言つと好みだ。

後は性格だな、オレはあんまり大人しいヤツは好きじゃない。

逆に多少じゃじゃ馬位の方がいいが……………

おおう、姫巫女ちゃんが吹っ飛んだ。つーかあんな状態投げるとか
どんだけ鬼畜なんだよ。

ん？ 姫巫女ちゃんが投げられた？
召喚された勇者に？

ア、アヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤなんだそれ？！

アイツなんで投げ飛ばされてるんだよ？！

ここは普通男を喚んで介抱して貰うところだろうが！

アヒヤヒヤ、あーヤメテくれ、ありえねーから、オレの腹筋のライ
フはもうゼロよ！つて嬢ちゃんが投げた方にいったな。

「テメエらの都合は知らねえけどなあ、こちとら学生なんだぞ！

此処は異世界だかなんだか知らねえが、こんな事になって行方不明
扱いされて、

出席日数足りなくなったらどうすんだよ！？

つーか今まで小学校からずっと皆勤賞だったんだぞ！

これの裏にどんな波瀾万丈なドラマがあつたと思つてんだ！！

すくなくともテメエならあつという間に蒸発するような事もあつた
んだぞ！？

つーか、今この状況がどんだけヤバいかわかんねえのか！？

テメエは知らねえかもしれねえけどコレ（お菓子）をアイツラに持
つていく途中でアイツラが目視出来るところだったんだぞ！？

どんな新手的『おあずけ』状態だよ！？

テメエのせいで俺が殺されるだろうがああああああ！！！！！」

おおっ、スゲーシャウト。だがそこがイイ。気に入った、コイツは
オレの嫁にする！？

「よう、異世界から召喚された不幸少女（勇者）くん。まあ、おまえさんもツイてないねえ。」

コイツはきつと『くん』の方が喜ぶだろ。
なにせ『俺っ娘』だからな！

すると嬢ちゃんはものすごく面倒臭そうな顔をした後、少し考え込み、

「ああ、全くだよ。まあ喚ばれたもんは仕方ないか、俺は芥河明人気軽にアクトとでも呼んでくれてアンタは」

と女性としては低めの声で軽い自己紹介をしてくれた。

しかし、良くこんな状況で平然としてられるな。
というよりコイツはこういった状況に慣れてるって感じだな。
全く、コイツはどんな環境にいたんだか。

まあいいや、ちょっと自己紹介して驚かしてみるか。

「へえ、コレはまた意外と落ち着いてるねえ。まあいいか、とりあえず自己紹介だな。」

俺はアシュレイ。

アシュレイ・アッシュフォード、チヨイと小洒落て魔王なんかやつ

ている何処にでもいる悪戯好きなお兄さんだ。
これからヨロシク！」

と爽やか笑顔でサムズアップを忘れずにする。

……………うん、明らかに面倒臭いやツ認識されたな、コレは。

放課後勇者。

とりあえず状況を整理しようか。

俺、帰宅

アイツラにお菓子作り

アイツラの目の前で異世界召喚

巫女さん投げる

何故か魔王様登場

そしてorz 今ココ！

……………うん、我ながら意味がわからんな。

まあいいや、とりあえず色々聞き出すか。

「なあ、いくつか聞きたいことがあるんだけどいいか？」

「OK. なんでも聞いてくれ」

始めはテンプレな質問なのでダイジェストでお送りします。

Q 1 ・此処は何処？

A 1 ・『アルカディア』っていう世界の人族の領域『ミッドガルド』の中の『神聖王国ヴァルハラ』にある『天の祭壇』って所。

Q 2 ・なんで召喚された？

A 2 ・勇者として巫女と一緒に俺と戦う為だ。

Q 3 ・なんで魔王様が此処に？

A 3 ・征服したから

Q 4 ・どうやって？

A 4 ・元々戦力は10：1でこっちが勝ってたし、最強である巫女ちゃんが三日も動けないなら全軍で攻めるに決まってるだろ。

Q 5 ・召喚に三日もかかるの？

A 5 ・術式に無駄ばかりだからな。俺なら3分ありや十分だ。

Q 6 ・巫女さんが最強なの？

A 6 ・『召喚』使うには神との戦いに勝って服従させないといけな
いからな。神に勝ったのはオレと巫女ちゃんぐらいだ。

Q7・俺の喚ばれた意味は？

A7・『召喚』は『召喚主』が服従させた神に自分に足りないものを持った異性を異世界から連れて来る魔法だから巫女ちゃんが出来ない何かがあるんじゃないか？

まあ異性ではないから『召喚』そのものが失敗してるみたいだがな。

……………成る程、要約すれば『この神聖王国ヴァルハラは魔王様相手と戦争をしてたが絶望的な戦力差に勇者召喚を決意。』

しかし勇者召喚には防衛の切り札である姫巫女を三日間戦局から外すことになり、これを好機と見た魔王軍に総攻撃を仕掛けられアツサリと敗北。

ただ、姫巫女はそれを知らないが為に今日俺を召喚した』
というわけだ。

……………そして俺は女王様（仮）に振り返り、

「お前は阿保かあああああああ！？」

と、吠えた。

その頃のヤツラ

「アイツ何かに巻き込まれたようだな」

「うん、まあヤツだしな」

「まあいつもの事ではないか、気にすることでも無いとは思っけどね」

「それもそうだね」

「そうだね。ほっつて置いても戻ってくるよね」

「いや、君達は間違っている」

「「「「「「?!?」「」「」「」

「君達は彼が何を持っていたのか理解しているのか？」

「「「「「「?!?」「」「」「」

ブローグに!?(後書き)

何時になるかわかりませんが次回もヨロシクお願いしますm()
m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4977y/>

放課後勇者。

2011年12月31日21時47分発行